

臨床研修センター活動報告

臨床研修センター 理事・センター長 甲谷哲郎・医長 佐藤朝之

1. 臨床研修センター診療の概要

医学部卒業後の2年間に義務付けられている「初期臨床研修」の目的は、「将来専攻する診療科に関わらず、基本的な診療能力を身につけること」です。そのため、当院では、卒後2年間で、「内科系診療科6ヶ月、救急部門（麻酔科を含む）3ヶ月、地域医療1ヶ月」を必須とし、外科系診療科、小児科、産婦人科、精神科のローテーションを推奨し、さらに希望する診療科を自由に選択可能なプログラムとしています。また、これら専門科のローテーションと並行して、common disease や common problems に対する初療を構築する経験を積むために「臨床研修センター診療」を行っています。すなわち、1年目と2年目研修医がペアとなり、さらに指導医が診療の質を確保したうえで、

- ・主たる診療科が不明の患者または受付時間外に外来受診したが診療科が対応できない患者（外来）
- ・3次救急以外の救急車（診療科が対応する患者を除く）
- ・入院病棟、外来処置室などで急変・増悪した患者のうち、診療科がすぐに対応できない患者（院内119）

に対する診療を行っています。この「臨床研修センター診療」を通じて、患者さんの主訴や受診の動機から問題点を抽出し、鑑別診断を行い、重症度を判断し、専門診療科へつなぐという能力と、外来処置中あるいは入院中の病棟で生じる一般的な問題に対する能力を養い、将来どの診療科へ進むとしても対応できるプライマリケア診療能力を身につけることを目指しています。2015年5月から救急車の直接搬入も開始され、当センターへの患者数は着実に増加しています。



2. 臨床研修センター主催講演会の報告

平成28年8月26日に、福井大学医学部教授の林寛之先生による特別講演会「Dr. 林の救急わくわくトリアージ」が院内で開催されました。林先生は、NHK テレビのドクター G に何度も出演されている大変著名な先生で、研修医のみならず、院内スタッフ、近隣の医療者、医学生などたくさんの参加をいただきました。身近な症候でありながら、危険な病態が隠れている「嘔吐」を中心に、患者さんの重症度、緊急度、隠れているかもしれない危険な病態について、さまざまなエビデンスに先生のご経験を絡めて、たくさんのことを教えていただきました。講演後は、先生と記念写真を撮りたい人、著書にサインをもらいたい人が列を作りました。林先生からは、「研修医が元気な病院はいい病院です。みなさん順調に成長していますね」との嬉しいお言葉をいただきました。



「小児救急初療（T&A）市立札幌病院コース」の開催

平成28年9月18日、全国から実力派インストラクターをお迎えして、1年目の研修医と、残り少ない枠で応募くださった道内の医師・看護師・札幌市消防局救命救急士のみなさんを対象に、「小児救急初療（T&A）市立札幌病院コース」が開催されました。このコースは、小児救急外来に携わる医療スタッフが対象となっており、コース終了後には、「見逃してはいけない疾患、または見た目から全身状態が悪い子供を早く発見し、適切な処置を施し素早く小児科に相談・連絡できるようになっていること」が目標となっています。参加者は、講義・ロールプレイなど通して貴重な学びを体験できました。

